

第 20 回滋賀県がん診療連携協議会 地域連携部会 議事概要

日 時：平成 27 年（2015 年）12 月 11 日（金） 14:30～16:00

場 所：大津赤十字病院 小講堂

出席者：別紙出欠表参照

1. 滋賀県地域連携クリニカルパスについて【資料 1 参照】

平成 27 年 11 月 30 日現在の登録状況と詳細一覧について、事務局より報告した。

全体の運用件数は、1,135 件であった。がん診療連携拠点病院では、大津赤十字病院が 153 件、滋賀県立成人病センターが 164 件、市立長浜病院が 158 件、彦根市立病院が 51 件、公立甲賀病院が 16 件、滋賀医科大学医学部附属病院が 159 件であった。地域がん診療病院である高島市民病院は 5 件、がん診療連携支援病院では、大津市民病院が 49 件、草津総合病院が 5 件、済生会滋賀県病院が 31 件、長浜赤十字病院が 250 件、近江八幡総合医療センターが 74 件、東近江総合医療センターが 20 件であった。

また、部位別では、胃がんが 419 件（早期 363 件・進行期 56 件）、大腸がんが 556 件（早期 447 件、進行期 109 件）、肺がんが 20 件（化学療法有 10 件・化学療法無 10 件）、肝がんが 4 件（内科 4 件・外科 0 件）、乳腺がんが 41 件、前立腺がんが 57 件、緩和ケアが 38 件（連携有 38 件・連携無 4 件）の運用であった。病院間での温度差が色濃く表れていることが指摘され、各病院にて院内周知するよう依頼した。

緩和ケアパスについて、緩和ケア推進部会においてパスについての意見交換が行われた。その中の意見としては、「パス開始のタイミングがわからない」、「使い勝手が悪い」等の否定的な意見が目立った。今後、WG にてパス開始のタイミングを明確にする等の見直しを図っていきたい。

現在、胃がん StageⅢ期の患者に対して、抗がん剤 TS-1 を内服するパスがあるが、外科学会では、StageⅢ期の術後フォローとして TS-1 内服のみでは再発率が高く、あまり効果がないとされているため、今後、パスを使用する件数が減少していくと予想される。

乳がんパスの件数が少ない件については、特定の医療機関が滋賀県の乳がん手術件数の約半数を占めているという理由以外に、若年層の患者が多いため、生活習慣病等の基礎疾患もなく、一般の診療所を受診する必要がないことや、乳がんを診る診療所が少ないという理由が考えられる。

高齢化社会に伴い、認知症とがんを併発する患者が増加していくため、そのような患者は、現行パスの適応は難しい。しかし、地域連携は不可欠なため、認知症患者も対応可能なパスの見直しが必要である。

2. 平成 27 年度計画の中間評価について【資料 2】

地域連携部会の平成 27 年度計画として、地域連携パスの活用（270 件／年）、地域連携パスの見直し、パス運用マニュアルの見直しを挙げている。上半期が終了したため当該計画の中間評価を行う必要がある。地域連携パス等の見直しについては WG にて実施しているが、平成 27 年度上半期パス登録件数は 131 件であり、今年度目標値の 270 件の半数には届いていないため、中間評価は『B』とした。

◎滋賀県がん地域連携パス 運用率について【資料 3】

滋賀県がん診療連携協議会に“部会における数値化できる指標”として、当部会は「地域連携パスの適応率」を指標している。

前回の部会では、2013 年のがん登録データを用いて算出したが、2014 年データが出揃ったため、最新データを用いて“胃がん”、“大腸がん”の Stage I・II 症例における 2014 年、2015 年上半期の地域連携パス適応率を算出してそれぞれ提示した。

2014 年における胃がん（早期）パスでは、市立長浜病院が非常に高い適応率であり、大腸がん（早期）パスでは、滋賀医大、長浜赤十字病院が高い適応率であった。しかし、2015 年上半期に入ると、全体のパス適応率は前年との大きな変化はないが、病院ごとに適応率の変動が見られる。また、前年と変わらず適応率が 0%である施設もあり、当部会の目標値 30%を目指すよう、改めて各施設に依頼した。

3. バリエーション件数及び理由について【資料 4】

今回より初めて、平成 22 年 4 月から平成 27 年 11 月現在のバリエーション件数及び理由について集計し、事務局より報告した。

前述の通り、全体の運用件数は 1,135 件であり、そのうちのバリエーション件数は 131 件であった。がん診療連携拠点病院では、大津赤十字病院が 19 件、滋賀県立成人病センターが 11 件、市立長浜病院が 27 件、彦根市立病院が 3 件、公立甲賀病院が 3 件、滋賀医科大学附属病院が 8 件であった。がん診療連携支援病院では、大津市民病院が 3 件、済生会滋賀県病院が 4 件、長浜赤十字病院が 45 件、近江八幡市立総合医療センターが 4 件、東近江総合医療センターが 4 件であった。バリエーション理由としては、「本人都合」が最も多く、「死亡」と合わせるとおよそ半数を占めている。

このように、これだけではパス見直しに活かせる十分な情報量とは言えないため、今後はより詳細な分析のためのデータ収集が必要となる。

また、滋賀県がん地域連携パスの運用開始から 5 年以上経過しており、すでに診療計画を終了している件数の集計も行っていかなければならない。

4. その他

◎第13回滋賀県がん地域連携パス研修会の開催について【別紙チラシ参照】

平成27年12月19日（土）に開催予定の『第13回滋賀県がん地域連携パス研修会』が案内された。市立長浜病院にて、大津赤十字病院泌尿器科 小倉部長による「滋賀県前立腺がん地域連携クリニカルパスの作成経緯と運用実績」について講演を実施する。

◎滋賀県がん患者団体連絡協議会より報告【別紙チラシ参照】

平成28年2月27日（土）に開催予定の「近畿がんサミット2016」について案内された。第1回は兵庫県で開催され、今回は2回目の開催となる。各府県のがん患者団体、患者委員、府県がん対策推進担当、医療関係者及び議会議員や一般市民に対して参加を呼び掛けている。

◎滋賀県がん診療連携協議会事務局より報告【別紙チラシ参照】

平成28年2月7日（日）に開催予定の「第7回滋賀県がん医療フォーラム」について案内された。国立がん研究センターがん対策情報センター長 若尾先生による「国のがん対策の現状と展望」の講演等を予定している。

◎県より報告

平成28年2月13日（土）に開催予定の「滋賀県がん対策推進議員連盟がんフォーラム」について案内された。開催場所は未定だが、治療・生活に注目したパネルディスカッションを予定している。

以上